

豊後高田市校務 DX 計画

【教育 DX に係る当面の KPI（文部科学省）】

整備すべき内容	整備 年度	整備 割合
クラウド環境を活用した校務 DX を徹底している学校	R8	100%
FAX でのやり取り・押印を原則廃止した学校	R7	100%
不合理な手入力作業を一掃した学校	R7	100%
生成AIを校務で活用する学校	R7	50%
次世代の校務システムの導入を予定する自治体	R8	100%

GIGAスクール構想において、校務DXを推進し、教員の児童・生徒に向き合う時間の確保並びに働きやすさ向上による教員の心身健康保持の実現及び誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境の整備を図る。

そのために当市においては、次のとおり取り組みます。

【取組内容】

各種法令の遵守、セキュリティの確保を行ったうえで、業務効率化、教員の精神的負担軽減を念頭に以下の取組を各主体で実行する。

現在の環境で実行できるものについては、各主体は直ちに実行するとともに、教育委員会は、各学校の取組について好事例等を学校全体に共有することにより取組を加速させる。

[教育委員会と学校のやり取り]

- グループウェア（校務サイボウズ）を活用した情報発信の推進
- 会議のペーパーレス化（タブレットや大型提示装置の活用）
- 校務の効率化（FAX原則廃止・押印原則廃止の推進）

[校内（教員間、教員と児童生徒）のやり取り]

- 各種事務手続のペーパーレス化（電子申請システム等の活用）、会議のペーパーレス化（タブレットや大型提示装置の活用）
- 各種資料や教材のデータでの共有（タブレットや大型提示装置の活用）
- 学習履歴のデータを分析・活用し、個別最適な学びを支援
- 統合型校務支援システムTe-compass（Webシステム方式のクラウドサービス）の導入による校務の標準化
- 校務系と学習系システムの連携や教育データの利活用方法について検討
- 不合理な手入力作業をしない方針とし、そのための各種システムの活用方法を検討

[学校と保護者等のやり取り]

- 保護者用連絡ツール（オクレンジャー）の活用
- 校務の効率化（FAX原則廃止・押印原則廃止の推進）

[その他]

- クラウドを活用し、データのやり取りについての業務効率化
- 生成AIを活用（文部科学省のガイドラインを参照）し、資料作成等についての業務効率化
- ICT支援体制の強化（各学校に配置している I C T 支援員の活用）